外国語科

上野　郁子
田中　里美
中町　佳乃子
研究協力者　滝沢　雄一（金沢大学）

１．はじめに

外国語科において育成すべき資質・能力は，三つの柱から次のように整理されている。「知識及び技能」として，「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解する」という知識とその知識を「実際のコミュニケーションにおいて活用できる」技能を身に付ける。「思考力，判断力，表現力等」として，「コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，理解したり，伝え合ったりすることができる」力を養う。「学びに向かう力，人間性等」として，「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成する。そして，これら三つの資質・能力は，言語活動の中で思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識及び技能が習得され，学習内容の理解が深まり，学習に対する意欲が高まるなど，相互に関係し合いながら育成されることが求められている。したがって，思考・判断・表現するというプロセスが非常に重要であることが分かる。

外国語の授業で言語活動を行う際には，「目的や場面，状況など」を意識し，それらに応じて考えや気持ちを整理し，論理的に伝えることが重要となる。相手の理解の状況を確認しながら伝えるなど，相手への配慮も不可欠である。外国語科の授業での言語活動を通して育成される，目的，場面，状況，相手に応じて内容を整理し適切に伝える力は，創造デザインにおける探究的な活動の過程においても活用されることが期待されると考え，数年前より，本校外国語科では，生徒が目的や場面，状況に応じて「相手意識」を持てるように取り組んだ。相手意識に焦点をあてて各学年で手立てを行った結果，年度末に実施した生徒を対象とした調査結果や生徒の様子等から，相手や相手の理解の状況に合わせて伝える力が付いてきたと考える。しかし，自分が伝える英語に自信がないことや，正確に伝えたいと思うあまりうまく伝えられないということが課題として挙げられる。

２．育成を目指す態度

これまでの研究実践を受けて，昨年度より，本校ではイノベーターと自立した学習者を育成するための態度を表１のようにまとめ，各教科で育成を図ることとした。

表１

A　主体的に取り組む態度
B　自ら問題を見つけようとする態度
C　新しいものを取り入れようとする態度
D　批判的に物事を見ようとする態度
E　他者と協働する態度
F　失敗を恐れない態度
G　計画を立てて実行する態度

これら７つの態度の育成を図る上で，全校で取り組む「主体的に取り組む態度」の育成に加え，外国語科では「失敗を恐れない態度」を全学年で共通して育成することを目指す。さらに学年の実態に応じて「新しいものを取り入れようとする態度」「他者と協働する態度」を，育成を図ることができる態度として加えることにした。これは，本校生徒の授業での実態として，伝えることに対する不安から，誤りをおかすことを恐れてしまうという姿が見られたためである。生徒の英語の授業での特徴として，英語でのやり取りは比較的積極的だが，発表の場面では消極的になる傾向が見られる。

第二言語の習得において，リスクを取る姿勢（risk-taking）が成功の鍵を握る重要な要素であると考えられている（Brown, 2000）。つまり，誤りをおかす可能性があっても挑戦する態度を育成することが重要である。生徒が失敗を重ねながらも，自分の気持ちや考えを伝える経験を繰り返すことで，次第に失敗を恐れず挑戦できるようになり，学習における好循環が生まれることが期待される。

３．指導の手立てや評価方法の検討

（１）教科として取り組む指導の手立

外国語科の授業での言語活動で，「A 失敗を恐れない態度」を育成した。学年の発達段階に応じて，「C 新しいものを取り入れようとする態度」「E 他者と協働する態度」を加えて，各学年で手立てを行った。

（２）学年の試み

①第１学年

第１学年では，年度当初，やり取りをする場面でも，話をつなげることができなかったり，英語を読んだり書いたりすることに苦手意識のある生徒がいた。研究部で実施した校内生徒のアンケート調査から，「失敗を恐れない態度」に不安がある生徒の比率が最も多かった。このことから，英語による言語活動において，「失敗を恐れない態度」を育成するために，２つの手立てを行った。

第一に，伝える知識技能を習得させることである。伝える英語や伝え方に自信が持てれば，発表に対する不安を取り除くことができる。伝える知識技能を向上させるため，教師が授業で心がけた。

ア　生徒から多様な表現や発想が生まれるような課題を与えること

イ　生徒の活動は４技能５領域をバランス良く自然につなげること

ウ　生徒が発話するまでに自信を持てるよう段階的に活動すること

Lesson６では「アメリカの大学生に日本の学校をメールで紹介する」，Lesson７では，「全校生徒で楽しめる e スポーツを提案する」課題に取り組み，伝える相手に応じてどう伝えればいいかを考えた。それらを踏まえて，Project２「学校の特徴を紹介するアニメ動画を作ろう」では，実際に校舎内の場所で紹介動画を作成することにした。動画を作成することで，生徒が心理的な負担なく納得がいくまで伝えられるようにしたり，生徒が動画を互いに視聴することで，身振りや視線，間などで効果的に内容を理解しながら相手に伝える方法を生徒が考えることができるようにした。

第二に，伝える内容を吟味することである。実際の授業では，生徒が伝えたい内容をマインドマップやメモで書かせた。それを基に，生徒は伝える相手を変えながら内容を試行錯誤し，修正することを繰り返した。生徒は聞き手の反応に応じて言葉を変えたり，話し手の内容を理解して質問をしたりすることで伝える内容に注目していた。最後は書く活動で締めくくり，生徒が互いに書いたものを読み合い書き直すこと等を通して，文の構成に気をつけて正しく表現できるようにした。この手順を繰り返すことで，生徒は伝える内容を精査し，以前より自信を持って発表することができるようになったと感じる。

生徒がどんなに伝え方や表現を工夫したとしても，教室内に心理的な安全性がなければうまくいかない。教室や授業がリラックスして自己表現できる場となるよう，教師が気を配るとともに，肯定的な声か

けやフィードバックをすることで，生徒の不安を和らげられるようにしたい。

②第２学年

第２学年においては，昨年度から取り組んでいる「失敗を恐れない態度」及び「新しいものを取り入れようとする態度」の育成を継続して行う。昨年度末に取ったアンケートでは，「４月の頃と比べて，ペアとの会話が繋がるようになった」,「知っている単語や文法が増えたおかげで，自分で文を作りやすくなった」,「ペアやグループワークを通して，表現力が広がった」,「発表を繰り返し行うことで，英語で話すことに自信がついた」など，肯定的な意見が多く見られ，繰り返し発話する機会を設けてきたこれまでの手立てが，生徒の「失敗を恐れない態度」の育成に効果を上げていることがうかがえた。その一方で,「まだまだ知っている単語が少なくて，自分が伝えたいことを表現できない」,「自分が作った文が合っているのか不安だから伝えられない」など，語彙や表現の知識不足から自分の考えを十分に表現しきれないと感じている生徒も一定数見られた。そのため，今年度も引き続き繰り返し発話する場を設けて自信を育てるとともに，ペアやグループワークを通して，生徒がより多くの語彙や表現に触れ，自分の表現力を広げられるようにしていきたい。

また,「失敗を恐れない態度」の育成に向けては，目的・場面・状況を明確にした言語活動を設定することが有効であると考える。目的・場面・状況が明確であれば，話したり書いたりする内容が浮かびやすくなり，単語や熟語などの知識も活用しやすくなる。その結果，英語での表現力が豊かになり，自分の考えを伝えることへの自信につながると考える。そこで，昨年度以上に目的・場面・状況を明確にした言語活動を設定できるよう，生徒にとって身近な人物を伝える相手にするなど，生徒が自然と伝える場面をイメージできるように工夫していきたい。

一方,「新しいものを取り入れようとする態度」の育成に関しては，ペアやグループワークでの意見交換を活発にすることは昨年度から継続するが，今年度は，活動の途中段階で，ICT 機器や教科書の活用，教師への質問，モデル動画の視聴など，生徒自身が自分に適した学習方法を選択できるようにする。これにより，新しいものを取り入れる態度の育成にもつなげる。

さらに，生徒の発達段階に応じた変化についても考慮したい。昨年度は，入学して間もない時期は自分の考えを発信することへの羞恥心が比較的少なく，その時期に育まれた態度を学年が上がってからも継続できるようにすることが今後の課題であった。２年生になった現在，アンケート結果からは，繰り返し発表を行う中で自信を深めている生徒が多いことがうかがえ，昨年度築いた「間違いを気にせず伝えてみる」という土台が，学年を超えて着実に継続・定着してきていると捉えられる。そのため，今年度もこれまでと同様に，繰り返し活動を通して成功体験を積み重ねられる場を設けるとともに，語彙・表現の幅を広げる手立てを組み合わせることで，自信をさらに確かなものにしていきたい。

③第３学年

第３学年では，昨年度の「失敗を恐れない態度」の育成を基に，今年度育成を目指す態度として「A. 主体的に取り組む態度」と「他者と協働する態度」に焦点を当て，授業改善を行うこととする。英語によるコミュニケーション活動の中で，生徒が自ら学びを調整するとともに，他者との関わりを通して考えや表現をよりよいものへと改善していく授業づくりを進めるため，次の３点を授業改善の手立てとする。

ア　学習課題の明確化と学習の見通しをもたせる工夫

単元及び各時間の学習課題を明確に提示し，学習の目的や到達目標を生徒と共有する。また，単元のゴールとなる言語活動を示すことで，学習の見通しをもって主体的に学習へ取り組めるようにする。

イ　協働的な言語活動の充実

ペアやグループによる対話活動や協働的な課題解決活動を積極的に取り入れる。互いの考えや表現を伝え合い，質問や助言を通してよりよい表現を考える場を設定することで，多様な考えに触れながら思考を深め，他者と協働して学ぶ態度を育成する。

ウ　振り返りによる自己調整と学びの共有

授業の終末には，学習目標の達成状況や学習方法について振り返る時間を設ける。さらに，振り返りを交流する活動を取り入れ，他者の学び方や考え方を参考にしながら自己の学習を見直す機会を設定することで，自ら学びを調整する力と，互いの学びを認め合い高め合う態度を育成する。

これらの手立てを継続的に実践することで，生徒が学習の目的を意識して主体的に学ぶとともに，他者との対話や協働を通して考えを深め，内容を再構築していく学習過程を充実させ，よりよいコミュニケーションができる力を育てていきたい。

評価については，単元の目標に照らして，生徒が課題に対してどのように取り組んだか，他者との関わりをどのように学びに生かしたかという学習過程を重視した。活動後の自己評価や相互評価，振り返りを通して，生徒自身が「何ができるようになったか」「友達との関わりによってどのように考えや表現が変化したか」を捉えられるようにした。また，教師は活動中の生徒の様子や発話，作成した英文，振り返りの記述等を見取り，単に完成した成果物だけでなく，学習過程における主体性や協働の姿を評価するようにした。

以上のように，３年生では，明確な目的や相手意識をもった言語活動，他者との対話を通した表現の改善，学習後の振り返りという一連の学習過程を大切にすることで，「A．主体的に取り組む態度」と「E．他者と協働する態度」の育成を図っていきたい。

４．参考文献

１）弓野　憲一，平石　徳己ほか：『世界の創造性教育』ナカニシヤ出版（2007）

２）文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語編　開隆堂（2018）

３）国立教育政策研究所：「指導と評価の一体化」のため学習評価に関する参考資料　中学校外国語　東洋館出版（2020）

４）Brown, H. D. Principles of language learning and teaching. Fourth edition. Pearson Education. (2000)

５）Mehrabian, Albert.: Silent Messages,Wadsworth Publishing Company(1972)

６）Horwitz, E. K, Howitz, M. B., & Cope, J. Foreign Language Classroom Anxiety. Modern Language Journal,70, 125-132. (1986)

７）畑村洋太郎：失敗学　ナツメ社（2015）

８）松宮奈賀子：「児童が好む活動に関する意識調査：不安の強さに焦点をあてて」,『日本児童英語教育学会研究紀要』25，pp.89-106

５．単元計画・学習指導案

１年生

外国語科　学習指導案

日　時：令和８年 11 月 21 日（土）１限
指導者：田中　里美
場　所：１年４組教室

１　単元名

Lesson６　School Lives in America（NEW CROWN English Series１）

２　単元の目標

海外の大学生に向けて，日本の学校をより知ってもらえるように，学校の特徴を簡単な語句やまとまりのある文で書くことができる。

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アメリカの学生に興味を持ってもらえるように，日本の学校を，現在進行形を用いた文の構造で表現している。 ・現在進行形を用いて書く技能を身に付けている。	・海外の学生に向けて，日本の学校をより知ってもらえるように，日本の学校の特徴を簡単な語句やまとまりのある文で書いている。	・海外の学生に向けて，日本の学校をより知ってもらえるように，日本の学校の特徴を簡単な語句やまとまりのある文で書こうとしている。

４　指導に当たって

（１）教材観

本単元では，アメリカの中学校を日本の学校と比べながら特徴や魅力を知ることができる。本文では，アメリカの学校生活の中でも，日本には馴染みのないスクールバスや授業，昼食などが写真とともに紹介されている。日本に比べて自由度が高く，授業や昼食を自分たちで選べるアメリカの学校は，生徒にとって新鮮で興味深いものである。写真や動画を見ながら，今まさに進行していることを表す，現在進行形の働きをもとに，どのような場面で使うのがいいかを探究できるようにし，Project で表現する活動につなげていきたい。

（２）生徒観

生徒同士や教師との英語でのやり取りを普段の授業から継続しており，英語で理解して伝えようする姿勢が定着している。英語学習への意欲が高い一方で，思うように対話が続かなかったり，状況を想像しながら読んだり，英単語を正しく書けないという課題が当初はあった。全体での英語でのやり取りや対話について考えたり，個別の音読や実際にまとまりのある英文を書くことなどを通して，少しずつ変化が見られるようになってきている。本単元での新出表現である現在進行形をもちいて，状況の説明ができるようにしていきたい。また，相手を意識した表現に生徒が気づけるよう，生徒が思考する場面で支援していく。

（３）指導観

今年度，本校外国語科の１年生で育成を目指している「失敗を恐れない態度」を英語で伝えることを通して身に付けるとともに，生徒の実践的な英語によるコミュニケーション能力を培ってい

きたい。学習内容や活動につながりを持たせ，たとえ失敗したとしても学びの過程の一つとして，目標に向かって生徒が挑戦し続けることができるように導いていく。

６月に交流したアメリカの大学生の中学生時代について尋ねた調査をもとに，アメリカの学校の魅力や実態を知ることで，日本の学校の良さにも改めて気づく機会となる。日本の学校を知らない相手に紹介する際は，相手の立場を意識することが必要となる。伝える相手をより明確にすることで，表現する語彙を取捨選択できるようにし，伝えたいと思える自然な状況を設定した。

５　指導と評価の計画

時間	ねらい（■），主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■アメリカの学校生活で，時間割や休み時間の特徴を知り意見を伝える。 ①単元で学習する内容に見通しを持たせる。 ②写真等について英語でやり取りして内容の理解を深める。 ③場面を想像しながら英文を音読する。 ④文脈の中で，現在進行形の文構造を理解した上で，自分の意見を伝え合う。				「帯活動」で身近な話題についてやり取りを積み重ねる。
2	■日米の学校の昼食を比較して意見を伝え合う。 ①教科書に掲載されている写真や資料映像，教師の発問から気付いたことを伝えて理解を深める。 ②場面を想像しながら英文を音読する。 ③文脈の中で，現在進行形の疑問文の構造を理解した上で，自分の意見を伝え合う。				
3	■どちらがほしいか，理由を入れて伝え合う。 ①教科書の説明文を聞いて，聞き取った内容を理解する。 ②現在形と現在進行形の文の構造を比較しながら理解する。 ③現在進行形の文を他の場面でも応用して練習する。				
4	■アメリカの中学生から送られたメールを読み，日本の学校の授業と比較する。 ①本文の概要を読み取り，外国語としてスペイン語が取り上げられていることを知る。 ②アメリカの授業の特徴について理解する。 ③日本の学校の授業の特徴と比較する。				
5	■アメリカの大学生に，学校の紹介メールを書いて伝える。 ①日本の学校について知らない相手に紹介する内容を考える。 ②伝える内容を絞り，伝えるためのメモをとる。 ③メモをもとに，相手を変えつつ伝え合いながら修正する。 ④書く相手をアメリカの大学生として，メール文を書く。 ⑤互いに書いたメールを読み合い，アメリカの学生の立場で返信のコメントを書く。		○	○	
6	■アメリカの中学校についての英文を自分の言葉で伝えようとする。 ①本文にある新出語句と英文をまとめて音読する。 ②場面を想像しながら，アニメーション動画でシャドーイングをする。 ③新出事項に関連したリスニング補助教材を行う。	○			
7	後日 単元テスト	○	○		

6　本時の学習（第５時）

（１）　目標

海外の大学生に向けて，日本の学校をより知ってもらえるように，学校の特徴を簡単な語句で伝えようとしている。

（２）準備・資料等　　パソコン，パワーポイント資料，アメリカの大学生からの事前調査，デジタル教科書，紹介記事，振り返りシート

（３）展開

○学習内容　・学習活動	・指導上の留意点など　【評価規準】（評価方法）	時間
○Warm-up Activities ① BINGO ② 英語の歌 ③ODP（ペアでの対話活動）	・自然に楽しみながら語彙を定着できるように習慣化する。 ・英語特有の音や異文化等に触れる時間となるようにする。 ・ペアで対話を続けようとしているかどうかを観察する。 ・他者の対話を聞くことを通して，より良い対話について考える機会とする。	12
○Introduction	・アメリカの大学生が日本の学校についてさらに知りたがっているため，メールで送ることになったという設定を提示する。 ・実際に事前に調査をした結果を使用する。	6
○Target **アメリカの大学生に日本の学校を紹介するメールを書こう！**		2
○Expressions	・アメリカの大学生に向けて，日本の学校の特徴を，検索してまとめられるようにする。 ・日本語や文ではなく，英語やキーワードでのメモを書いているか観察する。	7
○Activity ・メモでの学校紹介	・メモを基に，端末を効果的に使いながら相手をアメリカの大学生に見立てて学校を紹介できるようにする。	5
○Presentation ・全体の場での発表	・数名の生徒が全体の場で発表することで伝え方を共有する。 ・発表を聞いて，言葉の意味や詳細を引き出す質問を促す。	4
○Writing ・メール文の作成 ・メールの交換とコメント	・書く対象を明確にして，メールを書くよう伝える。 ・英文を書く際は，タブレット端末を使用せずに書くよう注意を促す。 ・ペアでメールを交換して，アメリカの大学生の立場でコメントすることを伝える。	12
○Reflection ・振り返りシートの記入	・本時の学習についての生徒の振り返りを，教師が授業後に確認する。	2

２年生

外国語科　学習指導案

日　時：令和８年 11 月 21 日（土）
指導者：中町　佳乃子
場　所：２年１組教室

１　単元名　　Lesson6　Friends from Singapore（NEW CROWN English Series 2）

２　単元の目標

シンガポールの姉妹校の生徒に日本の文化について知ってもらうために，相手の興味や関心を踏まえながら，日本の文化の特徴や魅力，自分の考えなどを整理し，簡単な語句や文を用いて，まとまりのある英語で書くことができる。

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 ・比較表現に関する事項を理解している。 〈技能〉 ・比較表現の意味や働きの理解を基に，自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて，書く技能を身に付けている。	・シンガポールの姉妹校の生徒に日本の文化について知ってもらうために，相手の興味や関心を踏まえながら，日本の文化の特徴や魅力，自分の考えなどを整理し，簡単な語句や文を用いて，まとまりのある英語で書くことができる。	・シンガポールの姉妹校の生徒に日本の文化について知ってもらうために，相手の興味や関心を踏まえながら，日本の文化の特徴や魅力，自分の考えなどを整理し，簡単な語句や文を用いて，まとまりのある英語で書こうとしている。

４　指導に当たって

（１）教材観

本単元は，本文にシンガポールから来た友達と日本の生徒との交流が描かれており，国や文化を比べながら，異文化への関心や理解を深めることのできる題材である。本単元で扱う比較級・最上級は，物事を比べてその違いや特徴を伝える表現であり，題材の内容と密接に結びついている。単元末には，本文に登場するシンガポールの姉妹校の生徒モナに体験してもらいたい日本文化を，比較級・最上級を用いて紹介する書く活動が位置づけられており，「書くこと」の言語活動につながる教材である。

（２）生徒観

本学級の生徒は，身近な話題や自分の経験について，自分の考えを英語で書く意欲が高く，書く活動に積極的に取り組む。一方で，内容面では，読み手を意識せず，自分が書きたいことを中心に書く傾向があり，伝える相手の立場に立った内容や，相手が理解できる表現を使って伝えることに課題が見られる。言語面では，定期テストなどの場面で，動詞の使い方や語順に誤りが見られる生徒や，助動詞が抜ける生徒がいる。伝えたい内容を，相手に伝わる正確な英文で表すことに課題がある。

（３）指導観

本単元では，「書く活動の前」と「書く活動の途中」の二つの場面で手立てを講じる。書く活動の前には，モナに体験してもらいたい日本文化について，十分に話す活動を設ける。話す中で，教師が意図的な発問を行い，モナの知識や関心を想定して，紹介する内容や理由を考えられるようにしたい。書く活動の途中には，教師が生徒の記述を見取り，目的に合った適切な内容になっているかを確認する中間指導を行う。あわせて，ICT 機器や教科書の活用，教師への質問，モデル動画の視聴など，生徒自身が自分に適し

た学習方法を選択できるようにする。それによって，自分の課題に向き合いながら，書いた文章を見直し，改善することができるようにしたい。これにより，新しいものを取り入れる態度の育成にもつなげる。

5　指導と評価の計画

時間	ねらい（■），主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■本文を読み，シンガポールの文化や生活について理解し，日本との違いについて考え，伝え合う。 ①単元末の活動について知り，マッピングなどを活用し，紹介する日本の文化について自分の考えを整理する。 ②整理した考えを伝え合い，話した内容を書く。 ②本文の中で，比較表現がどのように使われているかを確認する。 ③シンガポールと日本の違いについて自分の考えを伝え合う。				・記録に残す評価は行わないが，ねらいに即して生徒の活動の状況を把握し，指導に生かす。
2	■本文に関わるテーマについて，自分の考えなどを伝え合う。 ①比較表現を用いて，海外の旅行者に日本の魅力について伝え合う。 ②伝え合ったことを踏まえ，自分の考えを再構築し，その内容を書く。				
3	■本文のアンケート結果から姉妹校の生徒の興味や関心を読み取り，ニーズに合った日本文化について紹介文を書く。 ①本文の中で，比較表現がどのように使われているかを確認する。 ②アンケート結果を表にまとめて書く。 ③姉妹校の生徒の興味・関心を踏まえて，日本文化について簡単に紹介文を書く。				
4	■日本文化について，調査し，結果を伝え合い，その内容を書く。 ①比較表現を用いて，関心のある事柄について，調査し，結果を表にまとめ，グループ内で伝え合う。 ②伝え合ったことを踏まえ，自分の考えを再構築し，その内容を書く。				
5	■本文を読み，日本文化の紹介の仕方や，その魅力の伝え方について理解する。 ①本文の中で，比較表現がどのように使われているかを確認する。 ②折り紙の紹介を通して，日本文化の伝え方や紹介の工夫について理解し，第３時で選んだ日本文化について，再度紹介文を書く。				
6	■さまざまな事柄についてまとめられた表やグラフについて，読み取った内容を伝え合い，その内容を書く。 ①表やグラフに書かれている内容を読み取り，伝え合う。 ②伝え合ったことを踏まえ，自分の考えを再構築し，その内容を書く。				
7 8	■本文の内容を整理し，筆者の考えや伝えたいことを読み取り，要約して書く。 ①本文の中で，比較表現がどのように使われているかを確認する。 ②教科書本文を読んで，筆者が伝えたいことを捉える。 ③第１～６時で学習した比較表現や，既習事項を用いて，本文を要約して書く。				
9	■姉妹校の生徒に紹介する日本文化について，クラスメイトとの交流を通して，自分の考えや表現を簡単に書く。 ①第１時で使用したマッピングを基に，自分の考えを伝え合う。 ②教師が示す例を踏まえて，自分の考えを簡単に再構築し，伝え合う。 ③ペアで交流した内容を踏まえ，自分に適した学習方法を選択し，考えを推敲した上で，再度伝え合う。 ③伝え合った後，話した内容を書く。				
１０	■姉妹校の生徒に紹介する日本の文化について，相手が体験してみたい！と思うような紹介メールを書く。 ①第８時で書いた内容を基に，紹介メールを書く。 ②グループで作成途中の紹介メールを読み合い，目的や相手意識に応じた	○	○	○	

	内容や表現になっているかについて助言し合う。 ③助言を基に，紹介メールを推敲し，再度書く。 ④グループで完成したメールを読み合い，感想を述べる。 ⑤単元を通しての活動を振り返り，次の課題を明確にする。				
後日	単元テスト	○	○		

6　本時の学習（第 9 時）

（1）目標　シンガポールの姉妹校の生徒に日本の文化について知ってもらうために，相手の興味や関心を踏まえながら，日本の文化の特徴や魅力，自分の考えなどを整理し，簡単な語句や文を用いて英語で書くことができる。　【思考力・判断力・表現力】

（2）準備・資料等　　教科書，デジタル教科書，ワークシート，動画

（3）展開

学習活動・主な発問等（○） 主な思考の流れ（・）	・指導上の留意点など （評価方法）	時間
1　挨拶		3
2　復習（Small Talk） ○T: “What Japanese culture do you recommend to Mona? ” ・内容が薄くて時間が余ってしまったな ・御朱印って英語で何て説明すればよいのかな ・モナに日本文化の魅力が伝わっているといいな ○T: “体験してみたい度は★いくつ？理由は？” 数名の生徒に全体発表させる S1: “I recommend Goshuin. It’s Japanese culture. I have many Goshuin. I like to visit shrines. You can enjoy it when you visit Japan.”	・英語で聞いたり話したりしやすい雰囲気を作る	7
3　導入 ○相手意識が不足しているモデルを見せ，改善点を全体共有する ・御朱印って何かモナは分からないな ・自分のことしか話してなかったな ・おすすめしたいから should があるといいな	・モデルを提示し，生徒自身に表現の不足に気付かせ，内容を再構築できるよう促す	6
4　本時の課題をつかむ 「モナが体験してみたい！」と思うような日本文化を紹介しよう！		

5　言語活動① ○相手意識が不足しているモデルを踏まえて，話す内容をマッピングを用いて再構築し，再度ペアに伝える ・さっきよりは具体的に話せたな	・ペア活動がうまくいかない所は教師が入って支援する	4
6　中間指導① ・比較級・最上級を用いて表現できると説得力が増すな	・良い表現や，既習事項を用いて話している生徒がいたら全体共有する	5
7　言語活動② ○ペアを変えて再度伝える S1: “I recommend Goshuin. It’s like a stamp from Japanese shrines and temples. I have many Goshuin. It’s the best culture to experience. You can enjoy it when you visit Japan.”	・ペア活動がうまくいかない所は教師が入って支援する	4
8　中間指導② ○T: “今ので，モナが体験してみたいって思うかな？” “体験してみたい度は★いくつ？理由は？”	・生徒が相手意識を持って話せるよう，内容に関する質問をする	5
9　レベルアップタイム 英語で表現する上での自分の課題を確認する ○ペア交流，教科書使用，モデル動画視聴，教師に聞く等自分で最適な学習方法を選択し，課題解決を目指す	・様々な選択肢から生徒自らが選択し，学習できるよう学習環境を整えておく	8
10　言語活動③ ○レベルアップタイムを経て，最初のペアに再度伝える ○T: “体験してみたい度は★いくつ？理由は？” ・最初よりも具体的に話していて魅力が伝わるな ・比較級や最上級が使われていて詳しく話しているな ○伝えた内容をワークシートに書く ・more beautiful than を使うと内容がより具体的になり，モナが体験してみたくなる内容になるな ・相手に勧める表現の you should や it’s the best way などを使って書くことができた	・復習で全体発表した生徒に再度発表させ，内容や表現の変化を共有する ・第 1 時で書いた内容と比べさせる場を設け，生徒が自己の変容や成長に気付けるよう促す ※記録に残す評価は行わないが，ねらいに即して生徒の活動の状況を把握し，指導に生かす	8

11　まとめ 例）Hi, Mona. Welcome to Japan! I recommend collecting Goshuin. It's like a stamp from Japanese shrines and temples. People there write the names with brushes. Their writing is more beautiful than regular stamps! To collect them, you need a special stamp book. If you want to experience Japanese culture, it's the best way to feel Japan!		

３年生

時間	ねらい（■），言語活動（丸数字）	知	思	態	備考
1	■ ラジオ CM を聞いて，要点や必要な情報を聞き取ることができる。 ① モデルラジオ CM を聞き，ラジオ CM の特徴を理解する。 ② 商品のアピールポイントを聞き取る。				・後日行う発表に向けて「帯活動」で，身近な話題に対するやりとりを積み重ねる。
2	■ 紹介したい商品に関する内容を考え，30 秒 CM 風に話すことができる。 ① 商品を選び，アピールポイントを思考ツールで整理する。 ② 商品の魅力や理由を話す。				
3	■ 相互参照（対話）により，内容を再構築して，話すことができる。【本時】 ① 相互参照活動：ペアで互いの CM を聞き合い，魅力が伝わるか，表現や構成に問題がないか対話をする。 ② 相互参照を踏まえ，表現の追加や内容の修正を行い，再度話す。				
4	■ 全体指導を踏まえて，再度 30 秒 CM 風に話すことができる。 ① 相互参照活動で見出された共通の課題（内容面，言語面）について指導を受ける。 ② 30 秒に収まるよう，視覚資料や音声工夫を行い，話す。		○	○	
5	■ ラジオ CM の発表（放送）することができる。 ① 完成したラジオ CM を再生・共有をする。 ② 評価シートを活用し，相互参照による自分の変容や学びを振り返る。				